

大学図書館ポータルでの情報提供に関する実証的研究*

落合奈緒美 (学籍番号 200621312)

研究指導教員：逸村 裕

副研究指導教員：波多野和彦

1. 研究背景・目的

各種二次資料、電子ジャーナル、機関リポジトリ等急増するオンライン情報資源を大学図書館が効果的に提供していく方法の模索は、インターネットの普及と情報利用者の変化によって生じてきた新しい問題であり、それに対する有効な解決モデルの提案は重要な検討課題である。そこで、本研究では、大学図書館において電子化された各種情報資源を提供する方法をシステム側及び利用者教育の視点からポータルに着目して検討する。また、電子化された情報資源を提供する方法として、パソコンなどの固定端末の他に移動端末への提供も考えられる。本研究ではモバイル端末として普及が著しい携帯電話向けコンテンツについても言及する。

2. 研究方法

米澤^[1]や永田^[2]らの「図書館ポータル」は、情報資源提供に特化した Web である。さらに、開館情報などの図書館組織の情報手段として「ホームページ」も Web に必要であり、大学図書館 Web には、「ホームページ」と「ポータル」の両要素が必要であるとしている。

しかし、大学図書館 Web を情報資源提供について意識して作成している大学図書館は、現状としてどのくらいあるのかという問題がある。また、「ホームページ」的な要素と情報資源提供の「ポータル」としての要素が占める割合も大学図書館ごとに異なると考えられる。そこで、大学図書館 Web のトップページを情報資源提供に着目し、大学図書館 Web の入口、「ポータル」要素の現状を調査する。

3. 国公立大学図書館 Web 調査

調査対象は、全国の国公立 4 年制 728 大学 (国立 86、公立 76、私立 566) である。調査は、2007 年 7 月～2008 年 1 月に実施した。調査員 4 名の作業をもとに集計した。大学図書館 Web を確認後、12 項目 (開館案内・お知らせ・機関リポジトリ・デー

タベース・電子ジャーナル・アーカイブ・蔵書検索 (OPAC)・横断検索・情報資源別ポータル・マイライブラリ・携帯電話向けコンテンツ・パスファインダー) に関して調査した。

4. 調査結果

全大学 85%の大学図書館において図書館 Web が作成され、国公立大学では 100%、私立大学では 81%であった。

開館情報は、全大学の 98%が掲載している。お知らせは、全大学の 88%で掲載があり、国立大学で 100%、公私立大学では 85%であった。RSS 配信やメール配信への登録は全大学で 3%以下と少ない。機関リポジトリは、全大学の 10%で掲載があった。電子ジャーナルは、国立大で 94%と公私立大学と比べ 2 倍ほど高い。データベースは、全大学の 69%で掲載があり、国立大学は 91%と最も高く、公立大学は 55%、私立大学は 67%であった。アーカイブは、全大学の 20%で掲載があり、国立大学が最も多く 69%、公私立大学は 13%であった。蔵書検索は全大学で 97%の掲載だった。横断検索は全大学で 12%、国立大学では 38%であり公私立大学の 4 倍以上の掲載であった。ほとんどの横断検索が他機関の蔵書検索を対象とし、電子ジャーナルなどの情報誌源を対象としているのは 7 大学と少なかった。トップページとは別に作成されている情報資源提供に特化した別ページポータルは、全大学で 1%と少なかったが、大学図書館ごとに情報資源提供に関して工夫をしているのがよくわかった。マイライブラリは、全大学の 31%で提供している。パスファインダーは、全大学で 1%ととても少ない結果であった。

携帯電話向けコンテンツは、全大学で 19%、国立大学 55%、公立大学 14%、私立大学 19%であった。リンクは 87%と他の掲載方法と比べて一番多く、QR コードは全大学で 43%、アドレス転送は 9%であった。携帯電話向けコンテンツの内容を「館情報・蔵書検索・マイライブラリ・新着情報」の 4 種類に分類した。館情報と蔵書検索は 78%、マイライブラリは 52%、新着情報は 15.7%であった。モバイルコンテンツの要

* “Practical study of providing information at academic libraries portal” by Naomi OCHIAI

素組み合わせを調べたところ A~H の 8 つの組み合わせがあり、一番多く 29%を占めた G は「館情報・蔵書検索・マイライブラリ」の 3 要素が含まれていた。

5. 分析

大学図書館のトップページの機能は、大学図書館のサービス対象や範囲によって異なってくる。機能に合わせてトップページに何をどうやって表示させるかなどのレイアウトが決まってくると考えられる。

今回の調査では、掲載方法として「リンク」「検索窓」「ログインフォーム」「具体的に表記」「カレンダー」の 5 種類で調査している。RSS やメール配信登録に関しては、母集団が小さいため、分析に含めなかった。分析の結果、表1のようになった。

	具体的 表記	リンク	検索窓	入力 フォーム	全大学 (623)	平均	国立 大学 (86)	平均	公立 大学 (76)	平均	私立 大学 (461)	平均
A					1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
B					2	0.3%	0	0.0%	1	1.3%	1	0.2%
C					2	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
D					97	15.6%	3	3.5%	13	17.1%	81	17.6%
E					2	0.3%	1	1.2%	0	0.0%	1	0.2%
F					338	54.3%	58	67.4%	35	46.1%	245	53.1%
G					4	0.6%	3	3.5%	0	0.0%	1	0.2%
H					5	0.8%	2	2.3%	0	0.0%	3	0.7%
I					2	0.3%	2	2.3%	0	0.0%	0	0.0%
J					161	25.8%	14	16.3%	25	32.9%	122	26.5%
K					4	0.6%	1	1.2%	1	1.3%	2	0.4%
L					5	0.8%	2	2.3%	1	1.3%	2	0.4%
					623	100.0%	86	100.0%	76	100.0%	461	100.0%

表 1 分析結果

大学図書館 Web トップページのレイアウトは、A~L の 12 個に分類され、D(リンクのみ)、F(リンクと具体的に情報を記述)、J(リンクと具体的に情報を記述しカレンダーを掲載)の 3 種が全体の 94%を占め、検索窓やログインの入力フォームなど図書館ポータル要素を含むレイアウトは少なかった。

次に、大学図書館 Web のトップページを情報資源提供レベル(1レベル:図書館情報、2レベル:蔵書検索、3レベル:2次情報、4レベル:1次情報・別ページポータル、5:マイライブラリ)の 5 段階に分類すると、国立大学図書館と公私立大学図書館で分布に大きな違いがあった。

国立大学図書館では、5~3 段階の範囲に分布しているが、公私立大学図書館では 1~5 段階まで幅広く分布していた。また、情報資源提供とは関係なく、マイライブラリが設置され、貸出返却予約などの Web サービス支援として導入されている現状があり、情報資源提供要素として機能していないマイライブラリが多いことがわかった。

6. 考察

調査から現状において、大学図書館 Web のトップページは、多様なものであることがわかった。学術的機能が使われる大学図書館であれば、情報資源提供に特化したトップページを作成すべきである。同時に新入生への支援を考慮したコンテンツ作りが重要である。また、データベースや電子ジャーナルなど学術コンテンツの契約数や利用が少ない大学図書館であれば資料案内や利用案内・教育に力を入れるべきであると考えられる。特に、利用者教育のコンテンツとして挙げられるパスファインダーは、本調査においてとても少ない結果であった。今後の利用・作成に期待したい。

7. 今後の課題

本調査では、国公立大学間における分析のみなので、大学の学術的レベルや規模など他の要因に関しても分析する必要性がある。他の調査手法としては、アクセシビリティの視点からの調査や大学図書館 Web、マイライブラリのアクセスログを分析し、利用者による使われ方についても言及することができる。また、本調査を続けることで、推移などからより詳しく今後の傾向が把握できると考えられる。

文献

- [1] 米澤誠. 特集:情報ポータル, 図書館ポータルの本質:多様なコンテンツを生かす利用者志向サービス. 情報の科学と技術. 2005, 55(2), 56-59.
- [2] 永田治樹. 特集:ポータル, サービス戦略としての図書館ポータル. 情報の科学と技術. 2001, 51(9), 448-454.
- [3] 国立大学図書館協議会図書館高度情報化特別委員会ワーキンググループ “電子図書館の新たな潮流—情報発信者と利用者を結ぶ付加価値インターフェース—(平成 15 年 5 月)” [参照 2008.1.8] (URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/janul/j/publications/reports/74.pdf>)
- [4] 国立大学法人筑波大学編. “トレンド 13:図書館ウェブサイト”. 今後の「大学像」の在り方に関する調査研究 (図書館) 報告書: 教育と情報の基盤としての図書館. 2007,70-73
- [5] 落合奈緒美,波多野和彦,逸村裕. 国立大学図書館における携帯電話向けコンテンツの現状.第 6 回情報メディア学会研究大会発表資料. 2007,33-36